

技術を受け継ぎ、進化し続ける刃物屋

ヒカリハイテック株式会社

代表取締役 片寫 由希子 さん

住所 〒831-0006

大川市中古賀220-3

TEL... 0944-8714028
FAX... 0944-8714029



特殊ルーター E-1

今回の夢追い人はヒカリハイテック株式会社、代表取締役 片寫由希子さんにお話を伺いました。ヒカリハイテック(株)は1973年創業。片寫さん、会長の他13名の従業員がいるそうです。

改めて、事業内容を教えてください。
「大川では木工関係が中心となるため、木工用全般の刃物の他に、建材用刃物や樹脂用刃物などを製造・再生・研磨を行っております。」

製品はどのように製作されているのでしょうか？

「家具のデザインごとにオーダーメイドで刃物を製作します。まずは、お客様の要望を丁寧に確認し、「どの機械で」「何の材料で」「どのように加工したいのか」を詳しくヒアリングします。例えば家具用のカッターであれば、家具の図面から必要な切削形状

を出し、サイズ、超硬チップの種類、角度など細かな仕様を検討します。刃物の種類や用途によって工程は様々ですが、お客様の希望をいかに正確に形へ落とし込めるかが重要です。また、お客様にとっての大きな魅力が、超硬チップのグレードを選べる事と刃物の再生が可能な事です。弊社では普通の超高度の超硬チップの他に、人気のE-1や最高グレードのMH-1など多様な品揃えからお選びいただけます。また、超硬が薄くなり研磨が出来なくなった刃物も、新品同様の状態に蘇らせることができます。新品を購入するよりコストを大きく削減できるため、多くのお客様に喜ばれています。」

お客様は大川市内の方が多いのでしょうか。
「刃物で困っているなら、ヒカリハイテックに相談してみたら？」と大川市内はもちろ





研磨風景



カッター製作中



再生工程の様子

「私は常日頃から、お客様と一緒に家具作りに参加している」という気持ちで刃物を納めています。若い時、初めて刃物の打ち合わせに立ち会ったとき、

常にお客様に寄り添うヒカリハイテック。改めて感じるこの仕事の魅力は何でしょうか。

「私は常日頃から、お客様と一緒に家具作りに参加している」という気持ちで刃物を納めています。若い時、初めて刃物の打ち合わせに立ち会ったとき、

せていただいた時に、家具の図面を見て、「なんて夢のある仕事なんだ」と思いました。刃物に対して初めて、興味深いと思った瞬間だったと思います。私達は切削されている木材の姿しか見る事が出来ません。なので、木工まつりでお披露目されたのが、この時に見ると、「これがあの時に製作した刃物で出来た家具なんだ」とワクワクします。お客様とお話しし、刃物に触れれば触れるほど、その奥深さを感じ一生勉強だと痛感しています。現在はなかなか現場に向くことが出来ず、少し寂しく感じることもあります。それでも刃物を通してお客様とつながれるこの仕事にやりがいを感じています。」

自身にも常に言い聞かせていることです。また、仕事の中でふと「？」が浮かぶ瞬間があります。その小さな違和感を見逃さないことも大切にしています。刃物はわずかな条件や用途の違いで何を選択するかが大きく変わるため、些細な疑問にこそ丁寧に向き合うべきだと考えています。そしてもうひとつ。「悩むくらいならやる」です。女性会や商工会議所もその思いで加入することを決めましたが、バイタリティ溢れる方々との出会いに大きな刺激をいただいております。振り返れば2025年は素晴らしい出会いの年でした。そうした出会いも自分を前に進める力になっています。」

家業を継ぎ、代表として歩むきっかけは何だったのでしょうか。

「創業者は父ですが、母の闘病と子供がまだ小さかったこともあり、会社は一時期別の会社にお譲りしていた時期がありました。その間に、私は現場や経営についてさまざまな経験を積みました。その後、ご縁に恵まれて会社が再び戻ってくることになり、2022年に代表取締役社長に就任いたしました。家具作りに携われる刃物業が好きな事と、社員みんなの生活を守っていききたいという強い思いで役割を引き受ける決意を

しました。私は、大川家具は大川の誇りだと思っています。その家具作りに関わらせていただくことを、とても嬉しく大きなやりがいを感じています。これまで育ててもらった大川に、少しずつでも恩返しができるようにこれからも大川の役に立てる仕事を続けていきたいと思っています。」

大川のことを思い、日々行動されている片寫さん。そんな片寫さんの夢は何でしょうか。「幸いな事に、当社は若手からベテランまで素晴らしい社員に恵まれ、製造、研磨、営業の各部門で日々研究を重ね、技術や知識の向上に努めています。この会社を築き上げた会長である父や、創業当初から支えてくれた技術者の先輩方が培った技術を受け継ぎ、さらにパワーアップしていきたいと思っています。また、今できる分野にとどまらず、これまで取り扱ってきかなかった業種の刃物にも挑戦しています。新しく刃物を製作し、現場で実際に機械に取り付けてテストして上手くいくと、本当に感動します。そして技術が一段階上がったスタッフの達成感に満ちた表情を見るとき、私自身も胸が熱くなります。お客様の役に立ち、喜んでいただけることが何よりの幸せです。常に進化し続ける刃物屋でありたいと思います。」